

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500071		
法人名	特定非営利活動法人 なごみ		
事業所名	グループホーム ポラーノ		
所在地	気仙沼市田中前4-6-5		
自己評価作成日	平成 30年 2月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成30年 3月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームはこの4月で開所6周年を迎えます。「穏やかな時間を共に過ごし、その人らしく、ありのままを受け入れます」をホーム理念に掲げ、職員全員が利用様一人ひとりの気持ちに寄り添い、信頼関係を築きお互いを尊重できる関係性を維持しております。自宅で過ごしていた頃と同じような生活環境の提供を心がけ、利用者様がやりたい事・達成感を得られる活動を考え取り組んでおります。法人は職員のキャリア形成の為、資格取得や外部研修への参加を積極的に促すなど職員のスキルアップを目指しそれぞれの目標を成し遂げられるよう、共に努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

気仙沼バイパスに近く、近隣に公立病院、小・中・高校、商店街等があり、利便性の良い地域の一角にある。職員は入居者の「散歩に行きたい」、「好きな買い物をしたい」、「知人に電話したい」等を聞き、支援している。介護職員の不足が深刻化している中、職場環境の整備を積極的に行い人員が確保されている。日常の散歩や初詣、花見、林檎狩り等に出掛け、四季折々の景色に触れている。職員は、近隣の条南中学校で、介護の寸劇を通して生徒に認知症への理解を深める活動に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームポラーノ )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人が掲げる理念の他に、ポラーノ独自の介護理念を持っている。毎日の小ミーティング・月一回の全体ミーティング時に理念を唱和し、自身の振り返りやケアの実践に繋げている。	「入居者だったらどうして欲しいか」「スタッフとして理念に添ったケアが出来ているか」法人理念6項目を短冊に書き振り返っている。リビングに貼り、実践できているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練の協力依頼や、リンゴ狩りに出かけた際には取ってきたリンゴを近所の方にお届けし、積極的に地域の住民の皆様との繋がりを作っている。	近隣住民がホームの草刈をしてくれる。中学校で学校のジャージを職員が着用し、福祉に関心を持って貰うため、認知症の寸劇と講義を行った。地元ボランティアが舞踊披露に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト研修を受講した職員が2名おり、近くの中学校に依頼され中学生でもわかりやすい寸劇を取り入れ、認知症についての理解を深めるきっかけ作りをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、ご近所様や利用者様のご家族様へ、出席の依頼をしている。ホームでの活動状況や、利用者様への理解を深めて頂ける様に努力している。	同法人のグループホームとデイサービスと合同で開催している。災害時の姉妹ホームの連携、地域住民のホームへの協力、介護度による支援状況、家族の面会等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの繋がりを大切にし、今年度は2名の利用者様の入居を受け入れた。市町村からも頼りにされるようなホーム作りを目指し努力している。	4月の介護保険制度改正、介護報酬改定や6年目を迎えるホームの更新手続き等の助言を得ている。市主催の利用者のレクリエーション活動、アンガーマネジメント等の研修会に職員が参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間の防犯目的以外の施錠はしていない。また職員は身体拘束の研修を受講し、勉強会を開きその情報を共有している。身体拘束ゼロに向け、利用者様に寄り添った対応を心がけている。	行動やスピーチロックに当てはまる自由を制限する言葉等に注意し、拘束のないケアに努めている。「なぜここにいるか」と混乱している入居者に、話を聞きながら寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の研修を受講し、勉強会を開きその情報を共有している。また利用者様の立場になり、安心して過ごして頂けるように心がけ定期的にミーティング等で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「まもりーぶ」を使用している利用者様が2名いらっしゃる。月に1回の来訪時には、利用者様、「まもりーぶ」の職員とホームの職員が立ち会い、1ヶ月の様子をお伝えし担当者との信頼関係を築くよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約の際には、ご家族様の理解を得られるよう、十分な説明を行っている。不安や疑問点があれば納得頂けるよう、その都度対応を心かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。日頃から面会や電話連絡の際にご本人様の様子をお伝えし、家族様の要望等も伺うようにしている。家族様の思いや要望を記録に残し実践し、ケアプランに反映させている。	請求書や入居者の様子を書いた手紙を送付している。「現状を維持しながら元気に過ごして貰いたい」との要望で楽しみを継続することで、意欲低下を予防し、張りのある生活を送れるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体ミーティングでは、代表者も出席しホーム全体の状況を把握している。管理者と職員は常に身近な存在になり、報告・連絡・相談を密に行い連携を図っている。	代表や管理者は常に現場の声に耳を傾け、運営に活かしている。本人に適した介護用ベットに変更した。バイタルデータがパソコン導入により処理しやすくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、子育て中の職員への配慮や、半日休の活用など様々な労働条件を受け入れている。また個々の資格取得等、積極的に支援しており意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の適性に合わせ、外部研修への積極的な参加を促すと共に、資格取得費用を全額補助している。また研修報告会を行い、職員全員で知識や技術を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、宮城県グループホーム協議会・気仙沼介護サービス法人連絡協議会・行政の研修に参加する機会を設け、同業者との交流を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や要望に耳を傾け、思いを受け入れるように努めている。会話や行動を注意深く観察し、安心して生活していけるよう信頼関係を深める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話報告の際に、家族様の意見や要望をお聞きし、不安や疑問を解消して頂けるよう時間をかけて説明する事で、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のその時々々の状態を見極め、家族様の意向を確認しながら必要なサービスの見極めを行っている。またその他に必要なサービスがあれば、検討・移行を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人に合わせた役割を持って頂いている。職員は常に利用者様に寄り添う姿勢を大切にしながら支援を行い、互いの信頼関係を築いていけるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会の際には、利用者様の近況報告を行い、必要時には電話を入れ常にホームとの繋がりを感じて頂けるよう努力している。毎日ご面会にいらっしゃる家族様もいらっしゃる。家族様のケアを含めての支援を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から本人が大切にしてきた馴染みの方、馴染みの店の交流を続け、関係性が途切れないように支援している。また入居前からのかかりつけ医を利用する等、本人が築いてきた繋がりを大切にしている。	孫が帰宅途中、作業服姿で毎日訪れている。元同僚に電話を掛ける方や以前住んでいた家にドライブに行く方、家族と温泉旅行に出掛ける等馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は利用者様同士の性格や相性を考慮し、関わりが持てるように決めている。全員で参加できる行事・レク活動を提供し、声掛けや傾聴を繰り返し良好な関係を保てるよう、見守り・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様の家族様と街中で顔を合わせた時は声をかけさせて頂き、お互いの近況報告を行い情報交換をしている。また必要に応じて介護の相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や表情を大切にし、その中から利用者様の希望や思いを汲み取るように努力している。また家族様からの情報や協力を頂きながら、本人本位に検討している。	会話や入浴時に聞いている。中学校を卒業し神戸に行き子守をしたこと、富山の紡績工場で働いて苦勞したこと等の昔話を聞いている。好きな化粧品を買いたい、神社に行きたい等思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や趣味・嗜好品の情報を収集し全体の把握に努めている。入居後も利用者様や家族様の意見を取り入れながら、馴染みの生活環境を継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の生活の様子・排泄状況を記入し、各利用者様の情報を共有している。月一回の全体ミーティングの際に情報交換を行い、利用者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小ミーティング・全体ミーティング・モニタリングを含め全職員で話し合い、プランに反映させるよう努めている。本人様・家族様にも意向を伺い、ご希望に添えるように定期的に見直しを行っている。	入居者の日々の様子や意向を汲み取り、家族の要望等情報収集し、職員で話し合い作成している。「仲良く皆さんと過ごしたい」との意向を受け施設内外の行事に参加し、地域との交流が出来るように計画に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の生活記録や排泄チェック表・業務日誌・連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有している。ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の体調や予定を考慮し、家族対応の受診をホーム職員が対応の受診へ移行したり、待ち合わせ場所への送迎等、その時々生まれるニーズに柔軟に対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れ、地域住民の皆様との関係性を築きながら、利用者様が安全で豊かな生活を送れるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の希望や意向を受け、かかりつけ医を受診し適切な医療を受けられるよう医師との連携に努めている。受診した際は、受診記録に記載し全職員が利用者様の状態把握に努めている。	受診は職員、家族が状況や1カ月のバイタル表を持参し同行している。日常の健康管理は法人の看護師が対応している。協力医は、状態変化の時や夜間、緊急時に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が定期的に訪問し、利用者様一人一人と対話し、専門的な見解で職員に助言している。また職員が不安に思っている事に対し、適切なアドバイス・指示を出してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は可能な限りお見舞いに出向き、ご家族様や主治医・医療連携室との情報交換を密に行い、退院時の調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を十分に説明し、本人様・ご家族様の意向を出来るだけ早い時期に把握するように努めている。利用者様の状態に変化があった時にはご家族様と話し合いを重ね、かかりつけ医と相談しながら必要なケアを提供できるよう努めている。	入居時、重度化や終末期の対応についての指針を成文化し、家族の同意を得ている。急変時は、病院搬送している。これからも、家族の意向を聞きながら前向きに考えることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備え、救急マニュアルを作成している。定期的に勉強会を開き、全職員が緊急時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員立ち会いのもと年二回避難訓練を行い、災害時の非常食を常備している。また、避難訓練の際にはご近所様の参加をお願いし、グループホームに対しての理解を深めて頂ける様お願いしている。	年2回夜間想定も実施し、地域の方に見守り、誘導をお願いしている。火災報知器が作動した時のランプの確認、風向きに注意し叫び避難道路を確保、消火器は慌てず誰でも使えるようにする等確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に利用者様の意見を継承する姿勢を大切にしている。言葉遣いを丁寧にし、声の大きさやトーンにも気を付けている。利用者様に対し、否定の言葉を使用しないように気を付けている。	「動物好きだからペットショップに行きたい」という入居者の希望に、職員の愛犬を連れて来て一緒に楽しんだ。失禁時は、さりげなく声掛けし、プライバシーや羞恥心にも配慮したケアを心掛けてている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人の状況に合わせ傾聴し、わかりやすい言葉を使用し、遠慮なくお話しをして頂ける雰囲気や場所づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を確認した上で、職員が話し合い予定を組み入れるようにしている。その日をどのように過ごしたいかご希望をお聞きし小ミーティング等で職員が計画し、可能な限り希望に沿った支援が出来るよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前同様、身だしなみやおしゃれ・季節に合った装いや体に合ったサイズの物を身に付けて頂けるように支援している。本人様が使い慣れた化粧品を購入を支援している。また二ヶ月に一回、訪問理容のボランティアを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や盛り付けをして頂き、残存機能を活かす取組みを行っている、また、利用者様と職員と一緒に食事をする事で家族のような存在になり、下膳や食器洗いを自然に行えている。	献立は、法人の栄養士が作成し、地元の海藻や野菜を取り入れ調理している。誕生日には本人の希望を聞き「ちらし寿司」「あんこ物」を食べている。おやつにホットケーキと一緒に作り食事の楽しみを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の都度、摂取量・水分量をチェック、利用者様の状態把握をしている。摂取量が少ない時は、補食を提供し栄養の確保に努めている。また、利用者様の体調・状態に合わせた食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。利用者様の状態に合わせ、うがいや歯磨きの支援を行っている。夕食後は義歯を預かり、殺菌・洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、各利用者様に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。失禁が多い利用者様に対しては、尿量に応じたパットを使用し、時間帯によって使い分けしている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、時間、食前・後、外出前等の声掛けでトイレ誘導している。夜間は状態に合わせて時間での声掛け、パットの大小、ポータブル等個別に対応し安眠にも配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食事面からも便秘予防に努めている。毎日、軽体操を行うことで身体を動かし、スムーズな排便できるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の入浴予定の利用者様の体調や気分を見ながら時間帯を調整している。また、ご本人様に入浴の希望時間をお聞きし、希望に沿った時間に合わせ入浴支援を行っている。	一番風呂、熱め、午前や午後等希望に添って週2～3回の入浴である。拒否の方は、「散歩で汗をかいたから取り替えましょう」等声掛けに工夫している。家族の話や民謡を歌ったり寛ぎ、長湯になる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の健康状態や生活リズムを把握し、室内環境・温度・照明等を調整し、安心して眠れる環境を提供できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師・薬剤師からの説明や注意点を受診記録に記載し、職員全員が確認している。毎日の小ミーティング時に変更内容を伝え、利用者様の状態変化に気を付けながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を把握し活動を提案したり、ご本人様に希望をお聞きし、可能な限り希望に沿う活動を楽しんで頂いている。ドライブや嗜好品の買い物等、ホームの外に出ていただく事で気分転換をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望がある利用者様には、ご家族様の協力を頂き職員が同行し一時帰宅をしたり、ご自宅でお泊りになる等、日頃よりご家族様との信頼関係を築く努力をし、快くご協力を頂ける環境にある。	天気の良い日は、近くの商店街やホームの周辺をゴミを拾いながら散歩している。ドライブで初詣、花見、ツツジ、りんご狩り、白鳥見物等の四季折々の外出を楽しんでいる。家族と温泉旅行や大島架橋見学に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホーム職員が行っているが、利用者様から金額について開示の希望があった際には速やかにお見せしている。入金・支出があった際には出納帳に記入し、紛失防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居前から繋がりのあるご近所様・ご友人に対して「電話をかけたい」と希望があった際、または利用者様宛にかかってきた電話はその都度対応し、途切れない関係性を維持している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よく過ごせるよう、共有スペースの清掃を毎日行い清潔な環境保持に努めている。ホームの中で過ごしていても、四季を感じて頂けるよう四季折々の装飾を施している。	ホーム全体が暖かく換気や温・湿度が管理されている。ひな壇が飾られ、水仙や梅の花、ふきのとうの写真が待ち遠しい春を感じさせる。入居者はテレビを見たり、雛人形を作ったりゲームをしたりカラオケをして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファやテーブルを設置し、共有空間の中でも1人になれるようなコーナーを設けている。また気の合う利用者様同士で互いの居室を行き来し、楽しいひと時を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様の希望を取り入れ、居室の配置を決めている。ご自宅からご位牌をお持ちになり、毎朝お茶とお水をお供えている利用者様もいらっしゃる。	本人が掃除している部屋に、使い慣れたテレビ、ダンス、椅子、机、衣装ケース等が持ち込まれている。孫や曾孫の結婚式や七五三等家族の写真を飾り、その人らしい居室となっている。掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の状態を把握し、トイレ・浴室・居室が分かるよう表示している。廊下・浴室・に手すりやすべり止めマットを使用し、安全と安心を確保している。		